はじめに

スマート産業支援機関連携会議とは

岐阜県では、「成長・雇用戦略2017」第4次産業革命推進プロジェクトを推進するにあたり、産業支援機関が連携を図りながら、県内企業のIT化、IoT・AIの活用、ロボット・自動化等の支援を実施しています。

スマート産業支援機関連携会議は、このような産業支援機関の連携・ネットワークを強化することを目的に設置され、次の団体から構成されています。

- 岐阜県商工会議所連合会
- 岐阜県商工会連合会
- 岐阜県中小企業団体中央会
- 株式会社ＶＲテクノセンター
- 公益財団法人 岐阜県産業経済振興センター
- 公益財団法人 ソフトピアジャパン

本書の構成と使い方

本書『岐阜県 IoT活用・支援事例集（IoTの参考書）』

本書は、スマート産業支援機関連携会議に所属する団体が、県内企業に対し、IoT導入を支援した結果、現場の改善、生産性の向上、さらには経営面での効果が見られた事例などを紹介するものです。

県内の多くの企業の皆様の現場で、お役に立てるように、『参考書』のような形式で取りまとめております。ぜひ、IT・IoTを活用した生産性・経営力の向上、DXの推進などの難問に取り組んでいただけますと幸いです。

テーマ
取り組みテーマから
探すことも可能です。

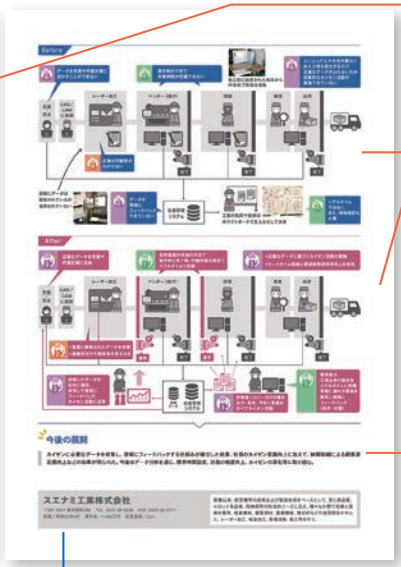
企業が抱える悩み・解決した課題
自社にあったものを
選ぶことができます。
※次ページに一覧表あり

3ポイント解説
全体像をつかむことが可能。
ナンバー（色）はページ内で
リンクしているので、ポイントごとに
追うこともできます。

企業が抱える課題の詳細
※Before図に対応

解決ポイントの詳細
※After図に対応

IoT活用後の成果
実際にIoTの活用により、
得られた成果を掲載しています。
ここから読み進めるのも◎。



10分でまるわかり解説動画
QRコードもしくは、
ソフトピアジャパン
公式YouTubeチャンネルから
アクセス可能です。

IoT活用のビフォーアフター
活用前後を図説しています。
Beforeには課題を青色の吹き出し、Afterには解決のポイント等をピンク色の吹き出しで解説。見比べていただくと、どこにIoTが活用され、課題が解決されたのかイメージがしやすくなっています。

今後の展開
IoT活用により得た成果から、
さらにどんなことが目指されるのかを掲載しています。

事例企業の情報
業種や規模などの情報を掲載。
企業の概要を把握することで
さらにイメージがしやすくなります。

本書事例の中でも活用されています

SOFTOPIA JAPAN 「スマート経営アドバイザー」派遣事業

製造現場の効率化・自動化・省人化、カイゼン活動や営業戦略のためのデータ収集・見える化などについて、アドバイス・提案します。専門的な知見を有する「スマート経営アドバイザー」を派遣して、貴社の身の丈に合ったIoT・AI導入等をお手伝いします。

職員による対応やアドバイザーによる調査は
無料です。お気軽にお問い合わせください。

合わせて見るともっと効果的！

ソフトピアジャパン公式YouTubeチャンネル

本書に掲載している事例を動画でも解説しています。右記QRコードより、YouTube公式チャンネルへアクセスできます。

公益財団法人ソフトピアジャパンが「DX推進」を応援する対象企業

岐阜県内の中小企業等	中堅企業（地域未来牽引企業等）	● デジタル化の基盤があるため、DX推進のきっかけや加速につながる情報提供・交換
	中小企業	● 経営者の内発的動機や意識に訴える「伴走型支援」による仕組みを構築し対応
	小規模企業	● インボイスなど制度的な変化に備え、経営者に負担がかからないツール等の紹介 ● 商工会・商工会議所等との連携による対応

中小企業に対する「伴走型支援」を取り巻く社会的背景とソフトピアジャパンでの取り組み

伴走支援の在り方検討会『中小企業伴走支援モデルの再構築について』（令和 4 年 3 月 15 日）では、従来の伴走支援は補助金など政府等の支援ツールを届ける課題「解決」型に力点が置かれてきた傾向があったが、不確実性の時代では「経営力そのもの」が問われるため、そもそも何を課題として認識・把握するかという課題「設定」型の伴走支援の重要性が増すと指摘。

そこでは、対話と傾聴を重視する「経営力再構築伴走支援モデル」が提唱され、経営者との対話を通じた信頼の醸成、経営者にとっての本質的課題の掘り下げが重要であり、これが経営者の腹落ちに繋がり、内発的動機づけが得られるとしている。一方で、その先の課題解決に繋げていくことも重要であり、課題設定と解決を行ったり来たりしながら、経営者の自己変革力、潜在力を引き出し、経営力を強化・再構築をするモデルであるといえる。

ソフトピアジャパンでは、同様の考え方に基づき伴走型支援を展開しているが、平成 29 年度以降に実施した「スマートものづくり応援隊※事業」（経済産業省 補助事業）を契機とし、次頁以降に示す独自のモデルを構築・進化させてきた。

※現在は、「スマート経営応援隊事業」（岐阜県で予算化）として継続。

ソフトピアジャパン（SJ）「スマート経営応援隊」による伴走型支援の特徴

1 SJ職員が積極的に関与

SJ 職員が主体的に取り組み、専門家や他の支援機関と連携をしながら、全ての段階において積極的に関与。

2 SJ職員が専門性を発揮

SJ 職員は、IT・IoT などのデジタル技術、コーディネートなどそれぞれの専門性を発揮し、課題解決に貢献。

3 あらゆる段階に対応可能

専門家（令和4年度時点 約70名登録）は、ソフトウェア、IoTシステム、設備、センサーなど技術系から、改善コンサル、ITコーディネータまで幅広く、データ取集、見える化、活用・分析、改善・変革といったあらゆる段階に対応可能。

4 現役のノウハウを活用

専門家の中には一線で活躍するIT企業等の現役の経営者・従業員も含まれ、効果的な提案と導入につながるケースが多い。

5 複数年に渡る支援

補助金の申請や、導入後のシステム活用・現場改善・経営支援にも関与するため、複数年度にまたがるケースが多い。

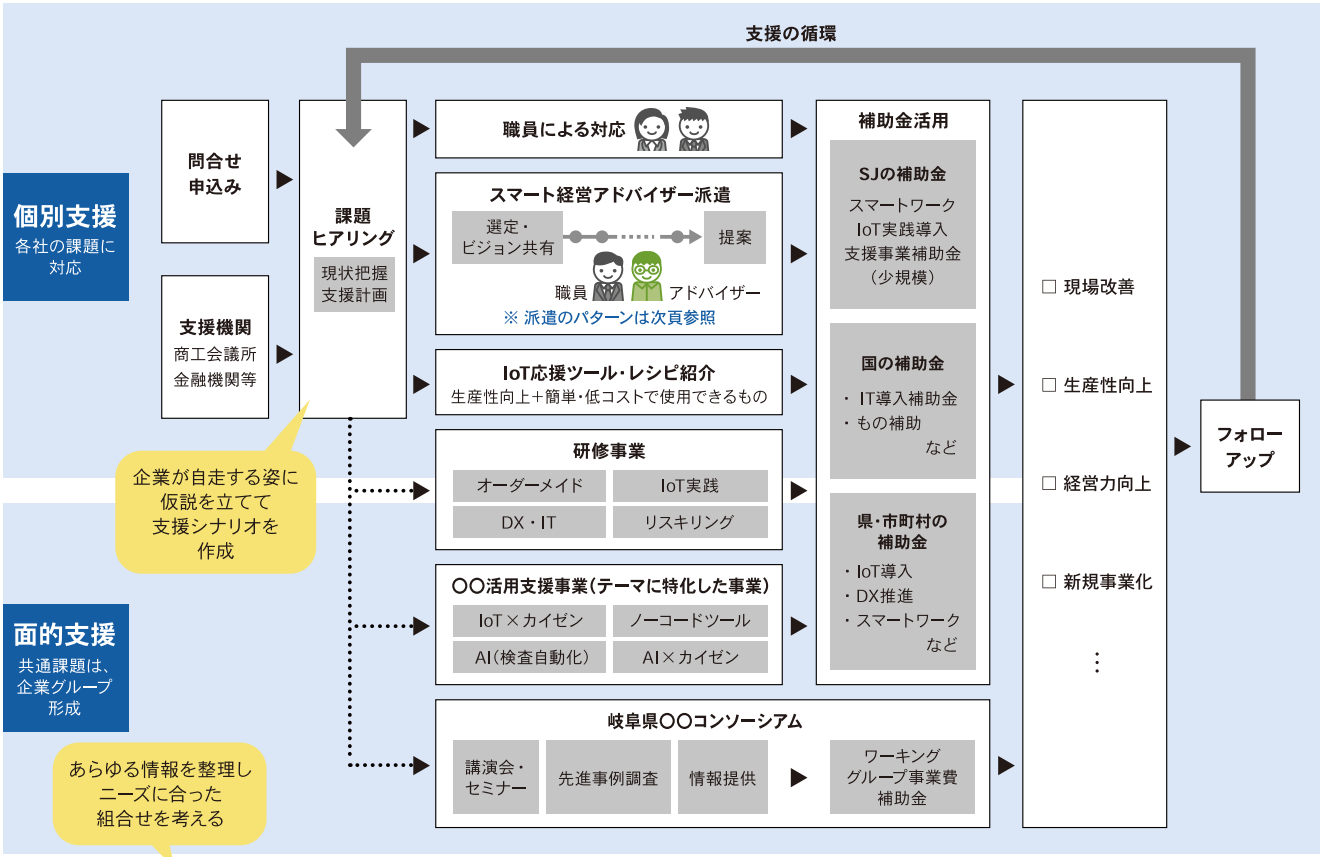
6 DXの地産地消を推進

SJ エリアをはじめ、岐阜県内の IT 企業とともに課題解決に取り組むケースも多くあり、DX の地産地消を推進。

ソフトピアジャパン（SJ）「身の丈に合ったDX」推進のための伴走型支援

目的・課題明確化 → データ収集・見える化 → データ活用・分析 → データに価値を付加 → 新たなプロセス・ビジネスモデル設計

- 自らDXに取り組む企業に対して、足りないリソースを補いながら各社の推進チームを伴走型で支援
- 各段階において、最適な支援方法を採用し、現場を巻き込みながら自走までを支援
- 企業が自走する姿に仮説を立て、それに向けて作成した支援のシナリオに沿って伴走することを繰り返す



体制

チームで伴走＋支援機関等とも連携

SJ 職員（様々な得意分野）

- ☑ 相談企業とアドバイザー
- ☑ 各機関の支援策や補助金

×

アドバイザー（約70名）

IT ソフトウェア ／ 設備 自動化 センサー ／ 製造 カイゼン ／ IT コーディネータ

×

DX推進手法（例）

- 業務分析＋全体最適化
- ノーコード×業務改善
- IoT+BI×カイゼン
- 自動化＋データ活用

対応できないものもあります　✕ 企業側の問題（体制など）　✕ 研究要素の強いもの　✕ 制度になじまないもの

■ 上記の伴走型支援を構成する支援メニュー

スマート経営実践補助金
（公益財団法人ソフトピアジャパン ）

ソフトピアジャパンの専門家派遣事業等を活用して IoT や AI 活用、ロボット導入等による現場改善等に取り組む企業に対して、システム・機器導入に要する経費の一部を補助します。

岐阜県 DX 推進コンソーシアム
（事務局：公益財団法人ソフトピアジャパン ）

産学官連携のもと岐阜県内企業のDXを推進し、企業が生産性向上や技術開発、新商品・新サービス創出等の実現を目指します。

DX・IT 研修／オーダーメイド実践研修
（公益財団法人ソフトピアジャパン ）

IoT・AI・業務効率化・システム開発など企業のDX推進で活躍する人材育成の研修を行っています。オーダーメイド実践研修は、岐阜県内企業・グループや団体等からのご要望により、開催日や開催場所を決めて開催する研修です。

IT 経営サポートセンター
（独立行政法人 中小企業基盤整備機構）

IT 活用や DX 化にお悩みの中小企業の経営者や IT 担当者、支援団体の方のための無料相談窓口。IT の専門家にオンラインでご相談頂けます。

ソフトピアジャパン「スマート経営アドバイザー派遣事業」等による伴走型支援の主なパターン6つ

0＝訪問・オンライン支援のタイミングを表し中の数字は回数を示します。
※0回目はアドバイザー派遣に向けた事前打合せ

アドバイザー IT系　アドバイザー 設備系　アドバイザー ものづくり系コンサル　アドバイザー ITコーディネータ　SJ職員

A

0 工場見学 課題ヒアリング 事業紹介
0 工場見学 ヒアリング 打ち合わせ
1 ヒアリング 業務分析
2 ヒアリング 業務分析
3 提案（A案 B案 C案 / or サンプルプログラム / or 試作システム）
タイミングが合えば → 補助金活用（県・SJ・国等）

B

0 工場見学 課題ヒアリング 事業紹介
0 工場見学 ヒアリング 打ち合わせ
1 ヒアリング 業務分析
2 ヒアリング 業務分析
3 提案
社員のリスキリングによるDX人材の育成を行いながら
具体化 1 社員 / 2 社員 / 3 社員
→ 最適化システム
社内での要件の取りまとめ、ITベンダーとの調整等

C

0 工場見学 課題ヒアリング 事業紹介
0 工場見学 ヒアリング 打ち合わせ
1 現地調査
2 提案（IoT機器）
3 ヒアリング 業務分析
4 ヒアリング 業務分析
5 ヒアリング 業務分析
6 最終提案（見える化システム）
補助金活用（県・SJ・国等）
県内ベンダー開発システム
DXの地産地消

D

0 工場見学 課題ヒアリング 事業紹介
0 工場見学 ヒアリング 打ち合わせ
1 現地調査
2 導入支援（IoT・AIツール）
3 IoTで収集したデータに基づく改善指導
4 5
6 まとめ 今後に向けた提案
必要に応じてフォローアップ

E

0 工場見学 課題ヒアリング 事業紹介
0 工場見学 ヒアリング 打ち合わせ
1 ①ヒアリング　2 ②ディスカッション　3 ③提案・情報提供
IT経営簡易診断（中小機構）
4 5 6 提案を実現するためのツール導入等支援（ノーコードツール活用による業務改善）
DX人材の育成
場合によってはオーダーメイド研修を実施

F

複数年度に渡る 伴走型支援（以下は相談内容が「基幹システムの更新」の場合を例にしたもの）

初年度

0 工場見学 課題ヒアリング 事業紹介
0 リーダー 工場見学 ヒアリング 打ち合わせ
1 現地調査（モノと情報の流れ）
2
3 4 業務フロー図作成支援
5 システムの方向性検討
6 まとめ 提案 優先順位検討
申請書作成支援

次年度以降

応募・補助金
サブシステム
生産スケジューラ
できるところから着手 スケジュールをデジタル化・見える化・共有
基幹システムの更新に向けたアドバイス・提案
補助金事業 実施
1 原価管理の基本
2 工程管理の基本
3 生産計画の立て方
4 まとめ
申請書作成支援

応募・補助金
IoTによる実績収集
AIによる検査の自動化
IoT対応自動機
基幹システムの更新を見据えIoTによるデータ収集と活用に取り組む
補助金事業 実施
1 次期システムの目標・ビジョン共有
2 個別原価管理・LT短縮実現
3 データ活用による業務改善
基幹システム更新に着手